

ウランバートル市における障害者の社会参加促進プロジェクト (DPUB)

ニュースレター第13号 (2018年5月)

チンギスハーン空港研修：世界中の人々に優しい空港を目指して

研修開始！ (2018.05.08)

5月7日、この日はチンギスハーン国際空港職員を対象にした研修の初日でした。空港研修は、5月に1週間連続、8月と11月にも同様に実施します。1日に30名が受講し、11月の最終日までに全職員450名が参加する計画です。午前は障害とは何かを考える「障害平等研修 (DET)」、午後は空港内で障害のある人に対するサポート方法の実習です。研修を受注したDETフォーラム・モンゴルのメンバーは、「初日から会場が停電・・・。プロジェクターが使えなくて戸惑いましたが、何とかカバーしました。空港はモンゴルの顔。朝から夕方までの長丁場で5日間連続とハードですが、とてもやりがいがあります。」と語ってくれました。世界中の多様な人々に良い印象を与えられるよう、皆で最後まで頑張りましょう！



DETのグループディスカッション

 JICA DPUBの
FACEBOOK
ページに「いい
ね」をお願いします。

お陰様で、今ではページのいいねが2284件に達し、より多くの方に情報を発信できるようになりました。これからも、楽しんでいただけるような投稿を目指して頑張ります。引き続き、宜しくお願い致します。

接遇研修 (聴覚障害者編) (2018.05.08)



研修中のロールプレイ

講師は聴覚障害者のネメフーさん。接遇研修は初めてということもあり最初は少し緊張していましたが、回数をこなす度に上手くなりました。空港で聴覚障害者が直面しやすい問題を説明し、その後、コミュニケーション方法や支援方法を教えて、いよいよ実践に移りました。聴覚障害者の方には、基本は筆談で対応する。分かりやすく要点を書くようにする。予め地図や絵文字を用意することで、誰とでも容易にコミュニケーションができるようになるなど説明をしました。また最近では聴覚障害者の方もスマートフォンを使って空港職員に質問することもあるそうです。職員の方も、最初是对応に戸惑いも見られましたが、ネメフーさんの丁寧な説明で徐々に慣れて筆談やスマートフォンで対応していました。またイヤフォンを付けて自分が(話せるけど)聞こえない人の役割を担い、同僚とのコミュニケーションを試みていました。これらの研修を通し、チンギス・ハーン空港が誰もが使いやすい空港になることを期待しています。

NGOの仕事編「カンボジアでの仕事 とダム開発」



DPUBチーフアドバイザー千葉寿夫

ダムの再開発に関する調査はカンボジア人の同僚と2人で実施することになりました。ふたりともダム調査は初めてで、私はカンボジアの仕事もNGOの仕事も初めて。最初は少し戸惑いでしたが、同僚は非常に温和で、英語もでき、資料も読み、話もよく聞きく人で、とても助かりました。いま思うと、この頃から私は同僚に恵まれていたように思います。国が違うと価値観の違いから、つい同僚の仕事に不満を抱く人も多いと思いますが、私はこれまであまり不満を感じたことはありません。細かいことを気にせず、相手を尊重していれば、自然と上手く行っていたように思います。さて仕事ですが、環境を重視するNGOと開発を重視する政府との狭間で、どんな報告書にすべきかだいぶ悩みました。雇用主がNGOなので、環境重視という立場ではあるものの、環境破壊イコール開発反対という単純な構図は自分には納得し難いものがありました。建設会社やJICAの話も聞きましたが、皆さんカンボジアの発展を熱心に考えていましたし、環境にも配慮していました。ただNGOから見れば配慮が足りず、住民は反対しており、水没地域の住民補償も不十分という考えでした。そんな中、カンボジア政府は再開発を断念し、結局、ダムは建設されてませんでした。NGO側にとっては嬉しい結果なのですが、我々の活動の成果とは言えず、自分にとっては中途半端な結末になりました。ただ我々も半年ほど調査をしたので、その結果をまとめ、カンボジア政府や海外支援機関などに報告書を提出することができました。この報告書は、国際協力分野で自分が初めて作成した報告書なので、いまでも良い思い出になっています。(つづく)

視覚障害を持つ人のためのサポート 2018. 05. 10

チンギスハーン空港での研修は実に盛りだくさん。午前の障害平等研修 (DET) の後は、30名の受講者を3グ



ガイドの仕方を学んでいる職員

ループに分けてサポート方法を実習しています。視覚障害のグループでは、アイマスクと白杖を使って、体験をしながらガイドの仕方を学んでいます。視覚障害者国家協会のツール先生が、「何よりもまず声をかけること、そして 当事者と話し合いながら案内をすることが大切」とポイントを説明。2人1組でお手洗いや階段、椅子への案内の方法を指導しています。「突然体を触られたり、腕を引っ張られると怖い!」。受講者は介助の悪い例も体感。適切なサポートを学んで、これからのサービス改善につなげていきます。

車椅子ユーザーのサポート 2018. 05. 15

「車椅子」は、障害のある人だけが使うわけではありません。高齢者やケガをしている人、体調の悪い人も使います。チンギスハーン空港の職員研修では、様々な障害のサポート方法の実習を採り入れています。車



階段の上り下りを学んで実践

椅子を利用する人の介助もその一つ。ユニバーサル自立生活センターのルハムジャブさんやニヤムカさんはじめ、ベテランスタッフが丁寧に指導しています。車椅子といっても利用者の状況やニーズは人によって違います。自分で移動できる人、誰かに押しってもらう必要がある人、移動はできるが車椅子から座席に乗り換えることが難しい人……。まずは利用者の声を聞いて下さい。車椅子は体の一部。無断で押さないで下さいね。」「介助する側の安全も大切。体重のかけ方、順番にも配慮が必要。」と指導員がアドバイスしています。受講者は、段差の上り下りやエレベーターの乗り方などを学んで実践。また交代で車椅子に乗って移動の感触を経験しています。利用者も介助者も安全で快適に。今後のサービスアップに期待です。

ありがとうございました!! 2018. 05. 15

「ウランバートル市における障害者の社会参加促進プロジェクト (DPUB)」は、5月7日～11日の5日間、チンギス・ハーン国際空港職員を対象に障害平等研修 (DET)と障害接遇研修を実施しました。毎日約20名程の職員に参加頂き、合計100名以上の職員が受講しました。本研修は空港から高く評価され、DPUBに感謝の意とチンギス・ハーンの置物が贈呈されました。非常に光栄で、チンギス・ハーンに負けたくないよう、障害者の社会参加を進めて行きたいと思っています。



講師の皆さん



チンギスハーン空港から感謝されました



DPUB連絡先

Office: Government Building – 2,
United Nation’s Street – 5, Ministry
of Labor and Social Protection
Ulaanbaatar – 15160, Mongolia

Facebook:

<https://www.facebook.com/jicadpub>

Website: [https://www.jica.go.jp/
project/mongolia/015/index.html](https://www.jica.go.jp/project/mongolia/015/index.html)

E-mail: dpub.jica@gmail.com